人物特集

笑顔の先に見つけた生きがい。

高知おもちゃ病院
おもちゃドクター・事務局長

竹内 博則さんに
おはなしをお聞きしました

壊れて正常に動かなくなったおもちゃを無料で修理するボランティア団体、高知おもちゃ病院。開院日には、大切なおもちゃを手にした子供たちが次々と訪れ、おもちゃドクターの作業の手を祈るように見つめています。

定年後、得意な機械設計の技術をおもちゃ修理に、コンピュータの知識を管理や広報に活かして、おもちゃドクター兼事務局長として活躍されている、竹内さんにおはなしをお聞きしました。

みんなで考えて修理して 直ったら本当にうれしい。

高知おもちゃ病院は、子供たちの壊れたおもちゃを直すことで物の大切さを知ってもらい、また子供たちと交流をはかることを目的とするボランティア団体。第2・4土曜は高知市で、第1・3土曜は南国市で開院しており、お子さま連れのご家族らが壊れたおもちゃを手に次々と来院されます。

問診が一番大事。最近のおもちゃは複雑なので、そのおもちゃの本来の動きが分からないんですよ。よくあるのは、人が喋るとぬいぐるみも喋りながら動くぬいぐるみ。同じ言葉を繰り返すものもあれば、そうでないものもある。少し甲高い声に変換するものもある。持ってきたお母さんに聞いてもよく分からない。子供さんに聞くと、「いや、そうじゃない。こうなんだ」と。よく使っている人に聞かないと、そういうのが分からない。正常な動きが分からないとどこをどう修理したらよいかが分かりませんからね。できれば、よく使っている子供さんと一緒に来てもらいたいですね。

ドクターは60代を中心に1名の女医さんを含む32名。２０１５年4月の開院以来、修理依頼は５００件を超えました。種類も動きも多様なおもちゃの修理に対応するには、幅広い知識が必要です。

修理は14歳以下対象のおもちゃに限定しています。15歳以上対象のおもちゃは構造が複雑になるし、下手に直してケガにつながっても困りますから。

修理の技術は、開院前に日本おもちゃ病院協会から講師が来て、おもちゃドクターの募集に申し込んだ人を対象に、基本的なことは教えてくれました。その後も自分たちで講師とテーマを決めて、開院日の受付が始まる前に勉強会を行っています。

おもちゃドクターには、工業系の学校の元先生、銀行員、放射線技師、林業をやっていた人、いろんな職業の人がいます。もともとの知識や技術のレベルが違うし、それぞれ弱いところがありますからね。できるだけレベルを合わせようと、勉強は続けています。

故障の原因が分かったら、修理方法を検討します。安全に使用していただくため、作業に妥協はありません。

一番いいのは、今日預かって今日直ること。だけど、部品がなくなってるとか割れてるとか折れてるとかだとその場では直らないから、ドクターが持ち帰って次の開院日までに直します。

基本的におもちゃの部品って売ってない。最初から壊れてたという初期不良だとメーカーは対応してくれますけど、1年も経ったらほとんど部品はないんです。ない部品は、ホームセンターで材料を買って作ったり、インターネットで探して買ったり、不要になって寄付していただいたおもちゃから部品どりしたり。

修理の方法も、例えばプラスティックの部品が折れてたら、接着剤でつなげるだけだとすぐまた折れる。時には寝不足になりながら、どう補強しようかと考えます。

みんなで考えて修理して、直ると本当にうれしい。直ったときの喜びはすごく大きいんですよ。

3世代続いて使っている木のおもちゃ、子供が使っていて物置で眠っていたけど孫にあげたいラジコンカー、自身が子供時代に遊んだドールハウス、いつも一緒にいるぬいぐるみなど。持ち込まれるのは、単なるおもちゃではなく大切な思い出です。

直ったおもちゃを返したときの表情はやっぱり覚えてます。子供さんは、喜ぶ子と恥ずかしがる子と両方います。お父さんやお母さんに「預けて帰るときには『お願いします』って言いなさい」「返してくれたときには『ありがとう』って言いなさい」って言われてる子供さんがいますけど、そんなの無理よね。恥ずかしいもんね。気持ちは表情で伝わりますよ。

子供たちの気持ちは　表情から伝わる。

勉強会

開院日には毎回勉強会を開催しています。この日のテーマは「超簡単モーターの製作」。
ドクターたちは、高知高専の元教授で南国診療所の所長・野村弘さんの説明を真剣に聞き、作業に没頭していました。

受付

修理依頼のおもちゃに関する情報を記載していただきます。

問診

まずは簡単に、おもちゃドクターが故障の内容を聞き取り、修理内容を予測して、その分野が得意なドクターを担当医に指名します。

その場で直りそうなら、少し待っていただいて、すぐに修理に取り掛かります。

診断・修理

担当医はさらに詳しく故障の内容を聞き取りながら、おもちゃを分解。原因を見つけ出し、修理します。

入院

当日直せないおもちゃは、
担当医が持ち帰って修理します。

お迎えを待つ、
修理済みの
おもちゃたち。

そのすべてに、
修理内容を記載
した用紙が添え
られています。

退院

修理内容や購入した部品があればその金額など、丁寧に説明してお返ししています。

動作確認していただいて

修理完了

右上　工具類は各自の自前。「必要なものを買い足したり、他の人が持ってるのを見て"いいな"と思って自分も買ったりして、どんどん増えていきます」。収納方法や容器なども工夫されていて、いいアイデアは真似して取り入れます。柔軟な思考と創意工夫は、おもちゃドクターの基本姿勢のようです。

上　修理依頼のおもちゃを付属品と一緒に写真撮影、パソコンへの写真の取り込みもドクターたちで分担して作業。活動記録や修理実績としてブログに掲載したり、フェイスブックを更新したりするのは、竹内さんが担当されています。

右　2つの診察室は受付開始からまもなく、おもちゃを手にしたご家族でいっぱいに。おもちゃドクターは大忙しとなりました。

何でも「挑戦、行動」屋。

旺盛な好奇心と行動力で、さまざまな挑戦を重ねてこられた竹内さん。おもちゃドクター募集にも迷うことなく応募されました。

僕は出身が工業高校の機械科で、設計をやっていて電気系は得意だったんです。大学は法学部に。その後ＩＴ系の企業に勤めて、若いころはプログラムを組んでいました。おもちゃの中にもプログラムは入ってますけど全然違うし、おもちゃのプログラムには触れないので、ＩＴ系の知識は修理には基本的に役に立たないですね。定年後、別の会社へ行ってまた機械の設計を始めたので、ブランクはありましたが、経験はしていました。幅広く何でも興味があって、何でもやってみるんですよ。

おもちゃドクターになったきっかけは、たまたま女房が募集の記事を何かで見て「行ってみたら？」と言われて。家でも何か壊れたら全部直していたので、家では一応"何でも屋"と言われていました。

おもちゃ病院でも、月4回の開院やイベントへの出張開院などのスケジュール管理、ドクターの割り振りなど、事務局長としていろいろな業務を担当されています。

出張開院の依頼があったら、受けた人が、開催場所が高知市内だったら高知診療所の責任者に相談します。月4回も土曜日開院してると、イベントの開催日と重複するんです。南国市はドクターがまだ少なくて重複するとメンバーが足りないので、じゃあ高知市のドクターも応援に行きましょうとか。そういった調整は事務局がやっています。

他にもチラシを作ったり、ブログ（インターネット上に投稿した記事を時系列に表示する日記的なホームページのこと）の更新をしたり、フェイスブック（インターネット上で自分や他の人が投稿した情報や画像を共有できるサービスのこと）に投稿したり。事務局は"何でも屋"。いろんなことをやってます。

おもちゃの周りに集まれば、年齢も職種も役職も関係なし。少年に戻って、賑やかな作戦会議が始まります。中央で作業しているのは、高知おもちゃ病院院長の宮本典晃さん。

不要になったおもちゃを寄付してください。

不要になったおもちゃ（壊れていても可）を部品取り、修理実習用に寄付をお願いしています。

「高知おもちゃ病院」ブログ
http://toyhospital-kochi.blog.jp

日本おもちゃ病院協会
高知おもちゃ病院

高知診療所

開院日	毎月第2・4土曜日　10〜15時
場所	NPO高知県生涯学習支援センター1階（高知市大原町 132・高知県教育センター分館内）
連絡先	TEL 080-2990-3330

南国診療所

開院日	毎月第1・3土曜日　10〜12時
場所	からくり創造工房（南国市大埇甲 2122・大篠小学校南側）
連絡先	TEL 080-4034-2516

仲間との時間が生きがいに。

修理依頼のおもちゃの周りには自然とドクターの輪ができ作戦会議が始まります。ドクターたちの表情は輝き笑顔がこぼれ、まるで少年のよう。

　おもちゃが直ればもちろん、子供たちは喜んでくれます。でもね、ドクターの方がもっと喜んでるんです。

　おもちゃ病院の活動を支援している長寿社会開発センターは、ねんりんピックの事務局もしている、明るい長寿社会づくりをめざしているところ。だから、子供さんよりドクターなんですよ。

　高知おもちゃ病院は開院してまだ1年ちょっとですが、日本おもちゃ病院協会は設立20年。ほとんどの都道府県におもちゃ病院があります。北海道大学の先生の調査によると、おもちゃ病院のドクターは長生きしてるそうなんです。もとの職業も役職も関係なく同じ思いの仲間が集まって、みんな生きがいを感じてやっています。

子供も喜び、ドクターも喜ぶ。壊れたおもちゃが直り、直らなくても部品として役立つ。物を大切にする心を育み、他者や高齢者との関わりも学ぶ。誰も何も損することがない、円満なシステムです。

　今、高知市と南国市に診療所がありますが、あと東部は安芸からのお客さんが結構多いので安芸でもやりたい。西部がないので、須崎市や四万十市へも広げていきたい。

　月4回の開院の他にこれまで、県内いろんなイベントに呼んでいただいて結構出張開院に行ってるんですよ。これからも積極的に出張開院して、おもちゃ病院の活動を定着させて、広く知っていただきたいですね。

おもちゃ病院の診察室には、ドクターの手元を熱心に見つめる子供たちとそのお父さんたちの姿がありました。おもちゃを蘇らせる魔法は、喜びの輪を確実に未来へとつなげています。